

クラブと施設について、子どもの体力向上 タレント発掘

講師：アクセル・ヴェルツ氏 (TSVバイヤードルマーゲンクラブマネージャー)

1 クラブ施設に関する プレゼンテーション

クラブマネージャーアクセル・ヴェルツ氏の案内の元、『プール施設』『フェンシング場』『全天候型陸上競技場 (400m)』『室内・棒高跳び用ピット』

『室内ハンマー投げ専用サークル』『室内直線走路』『ハンドボール場』等のそれぞれの施設の説明を受けながら視察を行った。施設内では、エアロビクススタジオや、体育館において、幼児を対象としたプログラムが行われており、僅かではあるが、メンバーの様子も見る事ができた。



クラブハウス (食堂) 外観



講師：アクセル・ヴェルツ氏



事務所棟



クラブ施設入り口にある
エンブレム



陸上競技場



ハンドボール場



プログラム



室内走路

2 クラブ概要について

アクセル・ヴェルツ氏よりスポーツセンター内のスペースにて、レクチャーを受ける。

クラブメンバー全体5,000人（内青少年2,200人）1920年に設立されたクラブ。製薬会社のBayerがスポンサーとしてサポートしている。Bayerは各地に製造拠点を持っており、ドイツ国内においてはドルマーゲン以外にも、3つの拠点においてスポーツクラブを展開している。また各クラブが州のそれぞれの種目の強化拠点となっており、ドルマーゲンでは、ハンドボール、フェンシング、陸上競技、が強化種目となっている。クラブでは100人の専任スタッフが働いている。また約200名のスポーツ指導者が働いており、週に延べ900時間のプログラムを提供している。様々なスポーツ施設が、一か所に集まっており、プールを利用した選手が、5分も歩けば筋力トレーニングができる環境へ移動する事ができる等、効率の良い配置となっていることが特徴である。講義の会場として利用した『スポーツセンター』については、ブンデスリガに所属するハンドボールチームのホームゲームとして利用する他、新車の発表会の等、できるだけ有効に利用すべく、様々な目的に利用されている。Bayerにとってスポーツクラブへのサポートは、地域住民への貢献という主旨が一番大きい。特に子ども・青少年へサポートに対し、大きな力点を置いている。当活動に対し、ドイツスポーツ連盟よりも様々な表彰を受けている。

ドイツの教育システムも大きな変化を迎えている。小学校が半日制から全日制への移行が進む中、学校と提携しながら、午後のプログラムを45人のスタッフが協力しその業務を担当している。街の清掃活動や、サーカスへの遠足など、スポーツの枠を超えて様々な活動のサポートを行っている。またこの地区にある他企業従業員のために、運動プログラムの提供等もしており、クラブの収入源

として重要な役割を果たしている。日本では職場等において、みんなで一斉にラジオ体操などを行うなどの習慣があるようだが、職場での健康管理の大切さから、今ドイツでもそういった光景が多くみられるようになっている。クラブの中以外でも様々な運動プログラムを提供して行くことは我々にとってとても大切なことである。

クラブ理念は、子ども・青少年の運動能力高め、高いレベルの競技選手へ、長期的なビジョンを持って育ててゆくことである。棒高跳びのビヨン・オッター選手や、フェンシングのニコラス・リンバッター選手、ハンドボールチーム等、クラブを代表する選手、チームを育ててきた。また一つの種目に、限定して見てゆくのではなく、陸上のコーチがフェンシング選手の指導をするなど、クラブ内でお互いに協力しあいながら工夫をし指導を行っている。

クラブの組織運営としては、主に3名が中心となりその他専任の事務局長や、ボランティアの理事たちで運営している。様々な部門、業務があるが、それぞれの担当者は、ボランティアで業務にあっている。しかし重要なプログラムについては、専任のスタッフが指導にあっている。スポーツ部門以外では、事務管理、施設管理、経理担当、マーケティングを担当する部署などがある。小さなスポーツクラブであれば、ボランティアで運営できるのかもしれないが、我々のような大きなクラブの運営をなると、ボランティアと専門の知識を持った職員とが協力して運営していることがとても重要な特徴と言えるであろう。

3 質疑応答

Q：Bayerが無くなった場合、クラブの存続はあり得るのでしょうか？

A：現在の形と同様に強化選手の育成等は出来なくなってしまうでしょう。

Q：強化選手として参加していたが、挫折してし

まった子どもたちへのフォローは？

A：例えば、5人が強化選手だった場合、全員がチャンピオンになる事は不可能。5人がチームとなり、中にはサポートする役割を担う者もでてくるでしょう。

Q：Beyer社以外の社員の方がメンバーになる事は可能か？

A：全く問題ない。

Q：ノルトライン・ヴェストファーレン州以外でも、今回の地域内の取り組みなどでも行われているのでしょうか？

A：州側がスポーツに関するコンセプトを提示したうえで、協力できるクラブが応募する形で

今回の取り組みは行われている。恐らく他の州でも同じような取り組みがなされているのでは？しかしスポーツの取り組みも含めて、州の権限が大きいために、州ごとの法制度等によって状況は異なる。スポーツに投下される財源の大きさには差はあると思うが、全ての州で取り組まれていることである。

Q：クラブのプログラムに参加するに当たり、月会費は？

A：16ユーロ。フェンシング等の競技種目についても、さほど変わらない金額で参加が可能となっている。

(報告：亀野陽太郎)

将来の挑戦、連携の方法と可能性

講師：ハンス・ペータ・ケーニツヒ氏 (TSVバイヤー・ドルマーゲン)

1 ドルマーゲンを例とする 学校と競技スポーツの 連携システム

ドルマーゲンには、種目を超え、学校の違いを超え、クラブの違いを超えて連携し、選手発掘、養成するシステムがある。これは子ども達が競技者として成長するための総合的なコンセプトとして、子ども達のスポーツ能力の発達全体をフォローし、運動能力の優れた子ども達に細かく対応している。

競技スポーツを行う上での環境はTSVバイヤー・ドルマーゲンを中心に、施設・設備、指導プログラム、指導者についても充実していて地域の学校との連携は近年多くの成果を上げている。学校は純粋に技術や体力を磨く場で、試合には所属クラブの名で出場するのが原則となっているため、選手毎の細かな情報を共有するため学校と各クラブとの連携が不可欠だというドイツのスポーツ事情が背景にある。

2 タレント発掘と養成のための NRW州^(注)プログラム

NRW州では1987年以来スポーツ連盟と協力してタレント発掘、養成事業を行っている。クラブがその任を受け、能力の高い子どもを発掘するためにコーチが直接学校に出向き、スポーツ活動中の子ども達の様子を観察する。能力の高い子どもへは「○○へ来たなら専門的な指導が受けられるよ」といったような具体的な話をしてコースへの参加を誘っている。

コース参加者へはまずは簡単な内容から実施し徐々にステップアップしていく。そして状況を見ながら活動し、この中でタレント性を見極めていく。タレント発掘グループからさらに選ばれた子ども達はタレント養成グループとして強化種目や二次種目の基本トレーニングを行い、さらに競技



講師：ハンス・ペータ・ケーニツヒ氏

者として成長するために必要な細かな指導を受けている。ドルマーゲンではNRW州のタレント発掘、養成プログラムに基づいてこれまでに800人の子ども達が参加している。

スポーツ振興のための財源は州によって違いがあるが、ドイツでは「スポーツは州のもの」といった考えが根底にあり、他の州もNRW州と同様な政策の下でスポーツ振興事業は実施されている。
注：NRW州（ノルトライン・ヴェストファーレン州）

3 ドルマーゲンの半日制寄宿舎 事業と競技スポーツ連携校

1997年以来スポーツクラブと競技スポーツ連携校が協力し、NRW州強化拠点より選ばれた12歳以上のスポーツ特待生に対して月曜～金曜までの週5日間の活動を実施している。この事業のための半日制寄宿舎を中心とした活動拠点は、TSVバイヤー・ドルマーゲンの近くに3カ所あり、ここでは送迎サービスや食事の世話、学校の教師による学習指導と共に種目別のプロのコーチによる長期に渡る特別強化トレーニングや専門家による競技力診断も実施されている。この事業には現在92人の選手が参加している。このうち18人は全国カーダー^(注)、68人が州カーダーを得ている。またこの事業開始から2009年までの12年間の成果を具

体的にメダル獲得数で示すと、世界選手権:金4・銀6・銅14 欧州選手権:金7・銀6・銅7 ドイツ選手権:金128・銀111・銅89となり、さらにドイツ青少年記録保持者が2名いる。

注:カーダー(スポーツの能力を示す資格で、タレント性ありと認められた子どもに与えられる)

4 中等学年に向けた 午後の生徒指導^(注)

TSVバイヤー ドルマーゲンでは学校と連携して1999年以来中等学年(10歳から14歳)の生徒に向けた午後の時間を有効に利用したプログラムを実施している。活動日も個々の状況に応じて週1~5日間と柔軟に利用出来るようにしている。内容は送迎サービス、昼食、宿題の手伝い、スポーツトレーニングを行っている。現在50人の生徒がトレーニングを受けている。

注:ドイツの小学校は4年間でその後は選択により職業コースと進学コースに分かれていく

5 スポーツクラスと スポーツ強化校

ドイツにはスポーツエリート養成のためのスポーツコースを持つ国立・私立の学校がある。TSVバイヤー ドルマーゲンが2002年以来クネヒトシュテデンにあるスポーツ強化校ノルベルト・ギムナジウム(私立)との連携・協力により行っている事業もその一つである。現在は15歳から19歳まで(5~9年生)の生徒19人が昨年完成したばかりの寮で生活し、スポーツを総合テーマとした指導を受けている。体育の授業は週に6時間あり(一般の学校は週3時間程度)指導についてはクラブがサポートしていて、担任は体育教師が当たる。また、一般的な学習に加えてスポーツの基礎知識や歴史、スポーツ関連の英語、コース指導や審判資格取得も可能で、ここで学んだ事を生かして低学年の子ども達の試合の審判をする事もある。特

有なのはスポーツクラスの遠足で、スキーやヨット体験が組まれている。また、生徒の試合に合わせて試験日を調整したり、学校の競技大会(日本でいう高体連のような大会)に合わせた授業も行われている。なお体育の授業以外の専門的なトレーニングについて午後はもちろんのこと、朝のトレーニングも可能で、トレーニングの場所は学校内だけではなくTSVバイヤー ドルマーゲンの種目専用施設やウケラートにあるレスリング専用体育館他、様々な場所で行っている。ここでは競技者としての精神面でのケアや進路について、家庭の問題、等個々の生徒や両親の相談にもきめ細かく対応し、生徒が上級学年に進むにつれ競技選手としてのキャリアを一步一步積み上げていくよう配慮されている。このクラスへはNRW州の外からも集まり、希望者が多く、順番を待っている状況である。

6 TSVドルマーゲンによる 全日制小学校支援

ドルマーゲンでは2006年より全日制小学校支援事業が開始された。ドイツの小学校の授業は半日で終わるのが一般的であったが、近年の政策の変化により午後も児童の面倒を見る全日制の小学校が徐々に増えている。TSVバイヤー ドルマーゲンでは提携先の小学校に対して、スポーツや学習、生徒の生活指導に至る様々なコースを学校に出向き実施するようになった。実施する時間帯もいろいろで、小学校の授業が始まる前の7:30~9:00、終わった後の11:00~16:00、そしてイースター休暇や夏休み3週間、秋休みを利用したコースもある。実施している内容はTSVバイヤー ドルマーゲンが子ども向けに作った運動性を高めるプログラムや、全日制小学校のために開発した水泳、フェンシング、ボール競技、陸上競技の各種コースがあり、活動を通してこのプログラムもまたタレント発掘・養成に繋がっている。スポー

ツ以外の実施内容としては、昼食の世話、学習面や余暇活動を有意義に過ごすための指導、社会性を身につけるための活動といった幅広い内容を提供している。クラブはこの事業によって市町村との連携をより高める事が出来た。このコースへは現在280人の青少年が参加している。

7 レクチャーまとめ

学校とスポーツクラブとの連携については様々なシステムがある。ドルマーゲン为例に見ても子ども達の成長に合わせ、個々の特性に合わせたきめ細かな指導プログラムが展開されている。これらの事業にはスポーツ以外にも文化的な活動や社会性を身につけるようなもの、学習能力向上とい

った、子どもの成長発達に大切な活動が多く含まれている。これらの事業を通して子ども達はスポーツを超えた能力を身につけるチャンスが随所にある。

TSVバイヤー ドルマーゲンの周囲を見渡せば、さながら夜空の星を眺めるように、多くのサポート体制がある(図1)。それらは大小さまざまだが、ドイツオリンピックスポーツ連盟(DOSB)・州・州スポーツ連盟・ドルマーゲン市・競技団体・スポーツ財団・市町村学校委員会・市町村体育委員会・バイヤー社……等

社会の様々な機関と連携していく事で、子供達が成長するための豊かな環境が整う。

(報告：石橋紀公子)

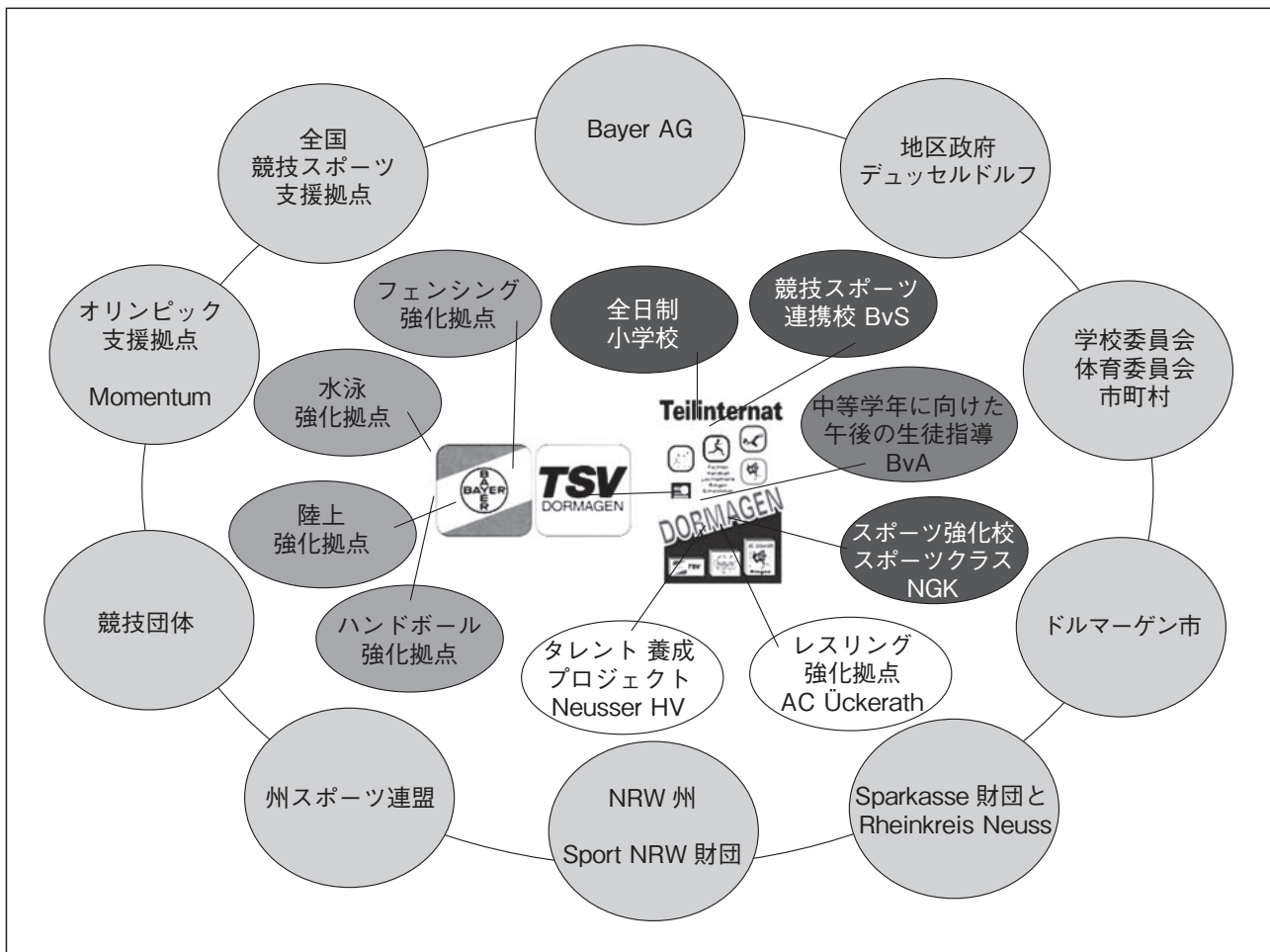


図1

タレント発掘事業について、学校とスポーツクラブの連携

講師：リリー・ツァンダース氏 (教員) / クリスチャン・ヘンシェル氏 (タレント発掘事業担当)

1 ノルベルト・ギムナジウムの紹介

私たちの学校はキリスト教のカトリック系である。

宗教的な学校なので設立としては私立ということになるが、実質は国によって運営されている。だから授業料は無料である。財政的には94%を国が負担し、残り6%はライン・ノイス郡が負担している。

ただし、寄宿制度などスポーツ関連については様々なところからの助成で経費を賄っている。ライン・ノイス郡やドルマーゲン市といった行政からの助成、また地域のスポーツ財団からの助成に加え、学校としても経費を負担しているし、寄宿生本人も負担している。

全校生徒は1,550名。それに対し教職員は90名である。生徒はスクールバスで学校周辺の地域から通ってくる。生徒の85%がカトリック信者であるが、プロテスタントの信者も15%いる。

学校の方針として、生徒が希望に応じて専攻を決めている。なお、私達の学校にはスポーツや音楽、自然科学などに重点をおいた専攻がある。

さらなる学校の特色として、通常のカリキュラム以外に特別授業（アカデミー）として経営学や倫理学、ソフトウェアなどに関する講座を用意し、



講師：リリー・ツァンダース氏

大学教員など外部から特別講師を招いている。これは専門大学や商工会議所と提携して行われるもので、17歳以上を対象に、2年間を通して毎週金曜日に開講される。受講するかしないかは生徒本人の希望による。校外からも受講希望者を受け入れているが、中には50~60km離れた地区からの受講生もいる。修了時には商工会議所の試験などもある。この講座については50~60人の修了者がいる。また2年前からは校長先生の発案で、大学の講義の一部を校内で行うようになった。この講義を受講した生徒が取得した単位に関しては、大学進学時に単位の振替ができるようになっている。なお、これらの特別なカリキュラムについては受講生が授業料を納入しており、講師への謝金



校舎入口



寄宿舎外観

に当てられる。

他は一般の公立学校と同様のカリキュラムで、生徒たちは卒業時に大学進学資格を得る事ができる。

将来的な話だが、私たちの学校の敷地は非常に広大なので、ここに専門大学を誘致しようという計画がある。特にスポーツを専攻する大学を誘致できないかと考えている。

(補足)「ギムナジウム」とは、主に大学への進学を希望する子どもたちが進学する9年制(2004年からは8年制)の学校であり、日本でいう中高一貫教育にあたる。教育内容は学校ごとにそれぞれ異なり、ギリシア語・ラテン語・ヘブライ語などの古典語や、英語・フランス語などの近代語、理数系の教科に重点を置いたものなど、いくつかのタイプがある。(wikipediaより一部抜粋)

2 学校におけるスポーツ

私たちの学校におけるスポーツの授業は、スポーツクラブのTSVドルマーゲンやノルトライン・ヴェストファーレン州と協力して行われている。

スポーツに力を入れている学校は他にも存在するが、その内容は地域や学校によって大きな違いがある。我が校に関しては、TSVドルマーゲンの存在が大きいと言える。

校内に写真を掲示しているが、私たちの学校か



ニコラス・リンバッハ選手



講師：クリスチャン・ヘンシェル氏

らフェンシング世界選手権で優勝したニコラス・リンバッハ選手など世界・国内で活躍するスポーツ選手を数名輩出した。リンバッハ選手は小学校を出てからフェンシングを始めたのだが、TSVドルマーゲンで力をつけた。この地域ではスポーツクラブが盛んであり、スポーツに関する関心が非常に高い地域となっている。そして、以前からクラブの指導者が私たちの学校で指導したり、学校のスポーツコースの一部がクラブにおいて授業を行ったり、ということでクラブと学校との関係ができていた。

3 寄宿舍制度について

さらに、昨年8月からは寄宿舍制度を開始した。



左：ビヨン・オットー選手 (陸上 棒高跳び選手)

最初は15人の希望者から始まって現在は19人の生徒が入寮しており、空室待ちの状況となっている。生徒の年齢は15歳から19歳である。大半がこの州からの生徒だが、他の州から来ている生徒も一部にいる。

このコースには、スポーツ能力が高く、学業においても成績優秀であることが確認された生徒が入ってくる。能力については一回のテストを受けて判断するのではなく、コーチを派遣して長期的に生徒を観察した上で総合的に能力を診断して合否を決定する。スポーツ能力の見極めとしては、種目によっても違うのだが、特にチームスポーツでは、プレー態度が重視される。なお、この学校に入ってきたら、まずコーディネーショントレーニングから始めることになる。

彼らが専門とするスポーツ種目は、フェンシング、陸上（特に棒高跳び）、水泳、ゴルフ、男子ハンドボール、女子レスリング、である。なぜこれらの種目かと言えば、地区の強化種目であり、連携しているクラブ、TSVドルマーゲンが力を入れている種目だから、というのが理由である。

また、オリンピックのために青少年大会を行うプロジェクトがあり、陸上の地域大会、地区大会、ベルリンでの全国大会へと続くのだが、必ずしも陸上専門の選手だけが出るわけではない。そして、選手たちは大会出場に際して「必ず勝たなければ」

というプレッシャーを感じることもない。ここでは、日本ほど勝敗に関して熱くなることはない。

学校として寄宿生に提供しているのは、授業のほかに食事、午前中のトレーニング、放課後の生活面での世話、クラブへの送迎などである。だから生徒は、午前と午後、トレーニングをする事ができるようになっている。スポーツコースでは6時間のスポーツの授業を行う。16歳以上になると、希望に応じて体育の時間の代わりに特別なスポーツ種目の授業に振り替える事ができる。

彼らは各種目の選手権出場などで学校の授業に出られない事がある。また、トレーニングのために学習が進まない事もある。そのサポートのために補習授業も行われる。そして、スポーツコースの生徒は学業面で遅れないように各自でスケジュール調整を行えるようなツールを持ち、各自で時間管理が行えるようになっている。これらのスキルを身につけることは、今後の彼らの自己管理の上でも重要となる。

4 教職員のバックアップ

また、私たち教職員は24時間体制で彼らの世話をするというので、生徒のおかれている状況が非常によく分かるようになっている。なぜスポーツ競技において結果が出ないのかを分析し、メンタル面や栄養面などの様々な面で彼らのサポート



食堂



食堂隣にあり学生が利用できるキッチン

ができるようになっている。

このスポーツコースの存在に対しては一般科目の教員も非常に理解があり、選手権が重なると試験日をずらすなどの対応をしてくれるなど、理想的な関係にある。教員の中に女子レスリングなど競技スポーツで活躍した選手だった者がいたり、生徒の保護者の中にスポーツ経験者がいたりして、環境的に非常に良い面がある。

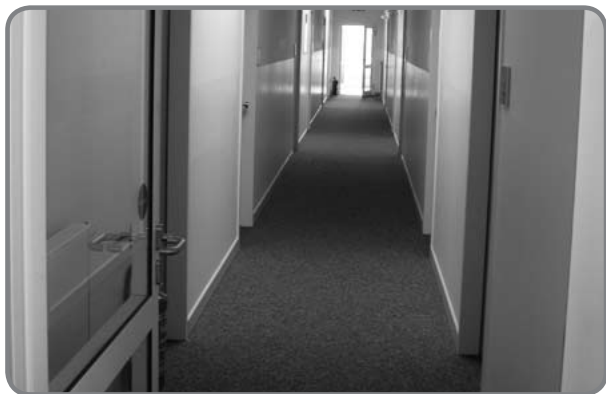
5 おわりに

システムとして、地域のクラブの存在などのスポーツ環境が整っているのは非常に素晴らしいことである。しかし、それ以外の要素、すなわち人的資源の方がより重要である。具体的に言えば、クラブの側のスタッフに関しても私たち学校

側の人間にしても、この人がいたからこそできた、というものが大きい。彼らが夢を持ち、情熱を持ってやり始めたことで、このような良い成果が生まみ出されたと言える。（報告：辻 正彦）



グラウンド



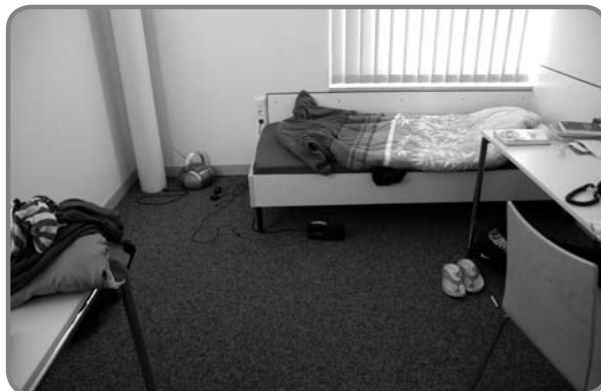
寄宿舎内



校舎前の広場にある卓球台



個室内



個室内

講師：アクセル・ベッカー氏（ライン・ノイス郡スポーツ相談課）

(ベッカー氏)：

今回のセミナーに関しての話し合いをしましょう。

● 質疑応答

※ 回答はすべてベッカー氏

Q：リットナー先生が、「もっとも大切なのは、ネットワークを構築すること」と言われたが、ネットワークの舵取りはどのような人がよいか。

A：舵取りは必ずしも必要というわけではない場合もある。その例として、私たち（ベッカー氏）とスポーツ連盟、クラブの関係では誰も舵をとらなくても上手くいっている。ネットワークの中には舵取りが必要な場合もある。プロジェクトを立ち上げてやる場合がそうだ。たとえば、幼稚園・クラブ・行政のネットワークの場合、プロジェクトを立ち上げて、だれかが舵取りをする必要がある。この場合は健康局を中心に進めていった。舵取りという言葉は不適切かも知れない。「舵取り」という言葉は個々に命令する人というイメージがある。ネットワークの場合は、お互いに協力しあってやるもの。ネットワークを上手く生かしていくには拠点となる事務所が必要です。最初に言い忘れましたが、ネットワークに最も関心があり、熱を入れている人が舵取りするのが普通です。

(この講義の前に行った「ノベルト・ギムナジウム」に関連して) 学校とクラブの連携について補足ですが、先ほどの2人の答えは外交的でした。私が思うに、学校とスポーツクラブの関係はいつも上手くいくとは限らない。私の経験で言えば、学校とスポーツクラブの関係は90%スポーツクラブがイニシアチブをとって学校に働きかける。いろんなケースを知っているが、校長先生がスポーツクラブ



の意味を理解したところは早いですが、校長先生が興味を示さないところは難しい。生徒や学校に意味があるか。コンセプトをとらえた上で働きかける必要がある。

Q：ベッカーさん個人に質問。この4日間私たちに親身に接して下さるのはなぜですか。

A：簡単なことです。ボランティア活動に協力する人に、「なぜか?」「どうしてか?」の話をすると、「楽しいから」という答えがありました。私の場合も同様で、その上、皆さんから出てくる反響（ポジティブでもネガティブでも）が、自分のやっていることをもう一度確認できる意味があるからです。

Q：ドイツ人にとってスポーツはどの位暮らしの中でウエイトを占めていますか。

A：ドイツ人にとってスポーツは、重要なポジションを占めています。その中でも代表的なスポーツを考えたとき、通常ドイツにとってすぐ出てくるのが、やはりサッカー、バスケットボール、ハンドボール、自転車がすぐに出てくるが、国によって違ってくると思う。自分でやる活動とすれば、やはり健康に関わる活動が第一番にくる。一般的に言えば、子ども達の特別なスポーツ活動、冒険的な活動、とか様々です。スポーツといっても、一瞬に

何をスポーツと言うんだろうと困るくらい、様々な側面を持っています。

Q：県全体のスポーツ振興を推進する立場ですが、ドイツは100年の歴史があり、州等がバックアップしている。スポーツクラブ以外を行政的支援しているのか。

A：行政は市民のためにあるので、市民がやりたい事は支援する。施設や場の提供とか。運動する場とかの準備は行政がするもの。ただ、体育館を作って「どうぞ使って下さい」とは言えませんけど。

Q：少子高齢化の中、高齢者への支援はあるが、若い人をひきだす手立てがあれば教えて下さい。

A：子どもがやりたいと言う興味を持つことを考える。たとえば、夜中に電気をつけてバスケットをやるとか。この場合小さい子とはいかないが。13歳位になると、ドイツの場合、ずっとクラブにいて活動していた子が出てしまう。そういう子をクラブやスポーツ活動にとどめるには工夫が必要である。ある年齢になると、男女別々な活動をするようになるが、男女一緒に活動できることを考えればもう少し積極的になるかもしれない。スポーツに限定するだけでなく、スポーツを超えた活動(遠足・キャンプなど)を提供するのも必要ではないか。

Q：ヨーロッパのドイツ以外の国の状況はどうか。また、日本以外のアジアの国で興味を持っている国はありますか。

A：いくつか知っているが、ドイツのスポーツ活動はボランティアとか特長がある。このような特長は他にはない。オーストリアは若干似ている所もあるが、生活基準が違うからドイツと同じではない。いろんな国からドイツに視察にきます。スイス、フランス、スペインなどとも関係を深めています。(リットナー先

生の影響で) 南米コロンビアや、中国・韓国からもライン・ノイス郡に来ました。国境に関係なくスポーツを通して交流している。

Q：自治会の役員(防犯)を担当しているが、ドイツに自治会のような組織があるか。

A：ない事はないが日本より強くなく、その機能はクラブが受け持つことが多い。

Q：クラブマネジャーはマネジメントする能力をつけなくてはならない。数人でやっているクラブは役員になり手がなくなる場合があり、その場合、小さいクラブ同士が統合して有償マネジャーをおくのはどうか。

A：2~3つのクラブが統合されている例はいくつもある。たとえば、年老いてマネジメントができなくなるが、後任が見つからない時は他のクラブを統合した例もある。しかし、小さなクラブでは有償のマネジャーをおくのは難しいのではないかと。最低2000人程度の会員が必要になる。

Q：日本はスポーツ振興組織がたくさんある。例えば、体育指導委員、体育協会、体育振興会など。それらが上手く機能していない。(連携がとれていない。)それが総合型地域スポーツクラブの弊害になっている。こちらの場合はどうか。

A：ドイツでもスポーツ振興する機関がたくさんあって、お互いに何に予算を投入しているか、どの位使っているか見極めている。時には、衝突する場合もあるが、私はポジティブに考えたい。1つの所が助成を独占するのではなく、いろんな所がそれぞれのスポーツ振興をすることは悪くはない。だが、州レベルの振興策は個々のクラブの維持にお金をかけず、市町村に渡し、市町村が各クラブに配分するのが良いのでは。

(報告：岸田美也子)



クラブ視察



歓迎の挨拶

ムヴィムス・マティルデ理事長(女性)

日本から来て頂き大変うれしい。日本のクラブの皆さんのお相手は何度もしました。

今日は私のクラブについて紹介します。また、後で、チングゲンのグループを指導する人から説明があります。皆さんの中で何人か一緒にやってみてください。

理事たちが自己紹介しますが、まずはコーヒーとお菓子を召し上がって下さい。

(※コーヒータイムしながら・・・)

前に座っている方々はクラブの理事です。

1人ずつ自己紹介をします。

自己紹介

★ホルストゥ・ホン・ゲーレン理事(男性)

クラブ会員の旅行の世話を担当しています。

1日(日帰り)旅行は年6回、12日間旅行は年4回を企画。

◎1日旅行の場合

行き先は、近辺の旅行です。例えばオランダとか。

バス2台で移動します。だいたい100人くらいの人が参加します。

◎12日間旅行の場合

50人位を2つのグループに分けていきます。

行き先は、シュワルツワルフ・南ドイツ・ブルッケンなどです。

ウルン川に添った保養地が主な場所です。

☆インベ・ヴォルク・シュルツ理事(女性)

クラブ広報や文化活動担当しています。

◎文化活動では・・・

2つの町と協力しながら、劇場へ行き、お芝居やオペラを鑑賞したりします。



シニア世代クラブの理事

◎広報活動では・・・

ホームページの更新が中心となります。

アドレスは www.saegko.de

主に活動の内容を紹介しています。

★フーベル・トウ・トクロウトウ理事(男性)

クラブの財務を担当しています。

・870人の会員の会費管理

・活動の経費(18人~20人の講師に支払い業務)などです。

☆クレーベ・ハンベルマン理事(女性)

理事長の秘書をしています。毎日ではなく、週2回勤務です。

★ハイツ・オーベン・キルヘン理事(男性)

2つの業務を担当しています。

①ケーゲルグループ担当。

※ケーゲルとは穴のないボールを使ってのボーリングのようなスポーツ

13のグループがあり、現在118人会員がいます。

最高齢は90歳です。(一番若い人は61歳)

②組織運営を担当。

★ハンス・ペーター・ゲアハルツ理事(男性)

◎テクニク・サーバーシステムを担当しています。

主に、コンピューターをLANでつなぐ仕事です。

クラブ会員の為だけでなく、市民も呼んで「健康について」などの講演(120人位参加)時に

技術的な担当もします。

◎シュルツ理事と協力して広報も担当。

クラブの映画を製作をします。また、パンフレットも作成します。

(映画はDVDにして1つ5ユーロで販売)

新聞社にクラブのデータを示すことも担当です。

☆マリアンネ・バレンティン理事 (女性)

第2財務担当しています。

劇場に行く時とかの簿記 (会計) 担当が主な業務です。

★マルク・ノイエンドルフ理事 (男性)

技術の補佐を担当しています。

☆ムヴィムス・マティルデ理事長 (女性)

理事達がしっかり仕事しているか、監視する役割です (笑)。

体 験

チングゲンという体操グループに混じって参加体験する。



チングゲン体験



手作りケーキでおもてなし

質疑応答

Q：ご夫婦で参加しているか？

A：女性 3分の2、男性 3分の1です。

夫婦で参加もたくさんいます。男性と女性と同じ活動していけば、めぐりあいもあってペアになって人もいます。

Q：①会費はいくらですか？

②12日間旅行の参加者はいつも同じか、メンバーは変わるか？ またそれについての参加費は必要か？

A：①月7ユーロ会費ですべてのコースに参加可能。特別コースは会費とは別にお金をもらう。クラブ会員は割引制度がある(35ユーロ→25ユーロ…10ユーロ割引)

②12日間旅行は行き先に応じて参加費が変わる。例えば、南ドイツの場合…550ユーロ(夜・朝の食事、交通費、保険含む)

Q：一番嬉しかったことは何ですか？

A：長く会員でいて下さった方をお祝いしたことです。25年・15年・10年などいろんなコース

があります。また、年に1度、春にクラブ祭りを総会と兼ねて行います。そこではクラブの報告のほかにダンスや劇の披露もします。

Q：他にどんな活動がありますか？

A：気功・記憶活性化・チングゲン(初心者向き、上級者向き)・水泳・ヨガ・体操・ウォーキング・男性用バレーボール・リハビリ兼ねた温水プール利用・カードゲーム・遠足・ケーゲルなどです。

小倉団長よりお礼の言葉

皆さんに会えたことを大変うれしく思います。日本は世界有数の高齢者の国で、われわれクラブマネージャーは高齢者に健康に過ごしていただけるように企画しています。本日は大変参考になりました。ありがとうございます。

(理事長)皆さんの活躍をお祈りします。遠い日本からよく来て頂きました。

これから少しですが、皆さんとケーゲルできる事を楽しみにしています。

視察終了後、場所を移動してクラブの皆さんと ケーゲル(ドイツボーリング)を体験



ケーゲルの風景



クラブの皆さんとケーゲルを楽しむ

会長のローター・ツィーマーマン氏と青少年担当：フリーデル・ゴイエンリッヒ氏に視察の対応をしていただいた。

歴史と概要

- ・1911年創立、サッカーが熱心な人たちが集まってできたクラブである。
- ・1925年他のクラブと合併して種目が増えていった。
- ・あと2年で創設100年を迎えるので記念イベントの準備をしている。
- ・1,800人を超える会員がいて、その内600人がサッカー会員である。
- ・クラブの施設（観客席付きサッカー場1面 Schloss-Stadion、サッカー練習場2面、陸上トラック、体育館、クラブハウスなど）は市から施設を借りている。
- ・サッカーは16チームある。青少年チーム13、大人のチーム3ありサッカーが主要部門である。



会長ローター・ツィーマーマン氏（左）
とフリーデル・ゴイエンリッヒ氏

- ・他の種目は、ハンドボール、ビリヤード、バレーボール、テニス、バドミントン、体操、心臓病ケアスポーツである。
- ・クラブカラーは「赤と白」
- ・1947年TUSと二つのクラブが合併したことにより、青少年、女性、高齢者が増え、種目が増加した。

役員構成

- ・理事長、副理事長、事務局長、サッカー青少年担当、HP担当となっている。
- ・役員すべてボランティアで活動している。

サッカー

- ・13の青少年のサッカーチームに35名のコーチと子どもたちの世話人がいる。
- ・サッカーチームの年齢構成は
5～6歳 バンビーニ
7～8歳 Fユース 基礎トレーニング
9～10歳 Eユース “
11～12歳 Dユース 戦術トレーニング
13～14歳 Cユース “
15～16歳 Bユース 競技トレーニング
17～18歳 Aユース “



サッカー場と陸上トラック

財 務

《収 入》

- ・会費は月6ユーロ
- ・2・3人目は割引（3ユーロから0）している。
- ・年に一度サマーキャンプを実施している。そこでパンや水を販売し経理に当てている。
- ・企業スポンサーから支援してもらっている。
- ・デュッセルドルフのチームを招待したり、オーストラリアのチームも来て大会を実施した。

《支 出》

- ・コーチもボランティアで活動している。指導者

への謝金は交通費として100ユーロ

- ・週2～3回の練習と週末は試合となっている。
- ・ボールを100個以上消費する。
- ・ユニフォーム夏冬用
- ・2007年は8,500ユーロかかった。
- ・市と企業は重要なパートナーである。ユニフォームは45%引きで“JAKO”が作る。
- ・1FCケルンの青少年チームと一緒にトレーニングを行っている。

（報告：三田博司）



クラブハウス外観



サブグラウンド



クラブハウスに飾られている
クラブエンブレムと写真



クラブハウスで説明を受ける



クラブハウスバルコニー



クラブハウスにあるバー

<ul style="list-style-type: none"> > Fußballschule > Pfingstturnier > Hallenturnier <p>ABTEILUNGEN DES TuS</p> <ul style="list-style-type: none"> > Handball > Billard <p>BESUCHERSTATISTIK:</p> <p>Besucherrekord: 874 Besucher gesamt: 372.472 Besucher heute: 109 Besucher gestern: 389 Klicks gesamt: 3.678.065 Klicks heute: 942 Klicks gestern: 3.028 4 Besucher online</p>	<p>Innerhalb von nur fünf Tagen haben wir 18 verschiedenen Programmpunkte abzuarbeiten, da bleibt manchmal etwas wenig Zeit, um noch ausführlich zu diskutieren," meinte Becker, der mit seinen Gästen anschließend zum nächsten Termin beim TV Orken aufbrach.</p>  <p>Der japanische Deputy Chief des Mission Kazuhiko Tachibana bedankte sich im Namen der Delegation mit einigen netten Gastgeschenken und TuS-Präsident Lothar Zimmermann konnte den erstaunten Gästen mitteilen, dass der TuS bereits Anfang Dezember erneut Besuch aus Japan erwartet. Dann wird Yasuhiko Okudera, zumindest den älteren Fußball-Fans noch in guter</p>
--	--

訪問がクラブホームページに掲載されました

1. オルケン体操クラブの歴史について

1896年に設立。1950年末から現在ある小体育館が造られ1961年に竣工した。1991年には、大体育館（バスケットボール1面・クラブ室・用具室・更衣室・洗面所等）が改築。敷地は町の土地を借り、体育館はクラブ会員の手作り（会員に土建業や建築業者がいる）数年前に敷地も町から買い受け施設全てがクラブのものになっている。改築費用については約50ユーロかかったがほとんどがクラブ利益及びクラブ会員からの寄付によるものである。

オルケン体操クラブは当初、体操クラブとして出発したが、現在は生涯スポーツクラブに変わっており、様々なスポーツを提供している。このクラブの特徴として、格闘技、カンフー、柔道、空手がある。会員数は約1,000名おり、80名のコー



体育館外観

ス指導者が、各コースの指導をしている。この体育館の使用について、午前中はこの近辺の学校に貸し出している。

2. クラブハウスの利用について

- (1) 青少年のコミュニケーションの場
- (2) 活動後の会員の憩いの場

- (3) その他、経営者がミーティング、各コースの指導者の会議等に使用している

3. 施設について（体育館、ホールなどが3つある）

※これらの施設は、クラブの所有であり会員はそれを誇りに思っている。

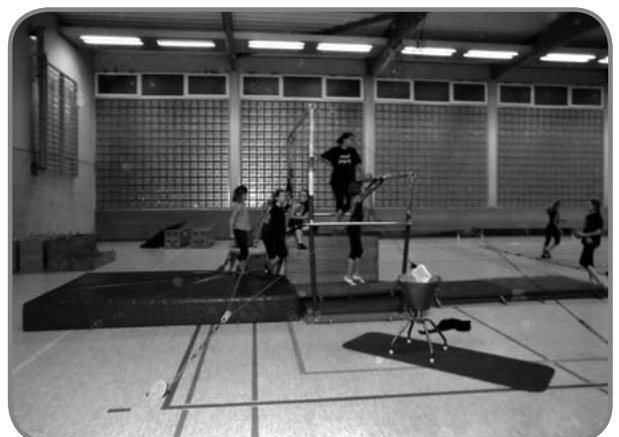
※維持管理はすべてボランティアでまかなっている。

①施設：体操場

体操は、レベルが非常に高く、高い競技力を持っている。

(12歳～16歳位) 週に1～2回のトレーニングをしているグループで、小さなころから始めている。

※現在、ショーに出演するためダンスと体操を組み合わせた作品を練習している。体操指導者・マヌエラさんが、大会やクリスマス会で披露する「ファンタジーキッズ」を指導している。



体操場



②施設見学：サッカーグラウンド（人工芝）

※初めは人工芝にたいして、滑ったりするのではないかと不安もあったが、現在は天然芝と同じである。

※年代別に分かれて練習を行っている。

③施設：トレーニングルーム

※会員は、フィットネスクラブに行かなくてもここで自由にトレーニングができる。ニーズがあり、マシンを購入したりしている。

④施設：柔道場

※柔道教室の参加者は年間約50試合に参加している。

⑤施設：体育館

※サーキットトレーニングやバレーボール、柔道が行われている。

※体育館の床が競りあがって舞台ができる仕組みになっている。体育館建設段階で話し合って作成した。



サッカーグラウンド（人工芝）



トレーニングルーム



柔道場



体育館（サーキットトレーニング）

ベッカー氏から

このクラブは、自分たちの力でこの体育館を作ってしまった。これは、非常に大きな特徴であり、特別なものといえる。非常に多くの時間と労力を注がなければならないので、お金ばかりでなく、

ボランティアで自分の時間を投入した。また、このライン地方に住む人々特有の優れた点である、人や組織作りのうまさ重要な役目を果たした。

視察に引き続き理事との夕食懇談会が行われた



オルケン体操クラブ会長：ハインツ・ペータ・コルテ氏（左から2番目）

（報告：市川裕代）